

# 小ギクの生産規模拡大を可能とする一斉機械収穫・調製システム

収穫調製を省力化できる、開花斉一化栽培技術・収穫機・開花程度選別機・つぼみ開花技術を体系的に開発。

- 期待される効果**
- ・収穫のための作業時間が、慣行の半分以下に削減される。
  - ・熟練者に頼らない機械選別とつぼみ収穫切り花の開花処理により、高い歩留まりを確保。

## 研究開発の背景

- 小ギクの生産において、収穫・調製作業は、
- ・全労働時間の46%にも達し、規模拡大の制約となっている
  - ・開花程度の判別が必要で、熟練を要する

## 研究成果の内容

- ・品種の選択と電照・苗冷蔵などの開花斉一化栽培技術
- ・小ギク収穫機と搬出台車による一斉機械収穫
- ・一斉収穫したキクを、開花程度によって機械選別
- ・つぼみ収穫した切り花の室内で開花処理



電照等の組合せで開花を斉一化



収穫機と搬出台車による一斉収穫

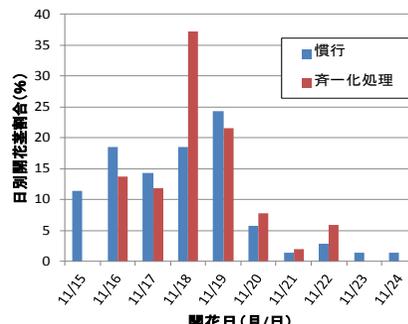


←操作用タッチパネル

だれでも出荷適期を判別できる開花程度選別機。つぼみ収穫した切り花も処理液で出荷可能に。

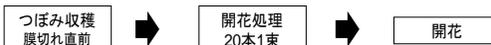
## 研究成果を導入した場合のメリット

品種と栽培の組合せで収穫期間が短縮



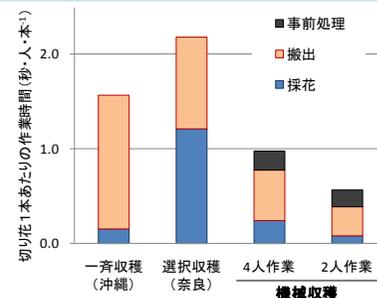
栽培法による開花斉一化(品種:老松)

開花程度選別と開花処理によって商品化率も向上



処理液による開花処理(品種:みのる, 9日後)

一斉機械収穫利用により作業時間は3~6割削減



収穫機と搬出台車を用いた機械収穫の作業時間(作業速度 15cm・s<sup>-1</sup>)

慣行と同じ労働時間で約3割の規模拡大が可能

### 一斉機械収穫・調製システムの導入モデル試算

	一斉機械収穫体系		
	慣行	面積同規模	労働時間同規模
栽培のべ面積(ha)	2.1	2.1	2.7
出荷本数(千本)	1,040	1,092	1,407
粗収益(千円)	40,599	46,269	54,836
経営費(千円)	20,212	20,999	27,550
所得(千円)	20,387	21,630	27,286
労働時間	11,643	9,216	11,449
(慣行を100とした比率)	100%	79%	98%

導入をオススメする対象  
規模拡大を指向する全国のキク生産者